

## 西条盆地（広島県）のボタンウキクサ

下田路子

Michiko Shimoda: *Pistia stratiotes* L. found in the Saijo basin, Hiroshima Prefecture

ボタンウキクサ *Pistia stratiotes* は、熱帯に広く分布する浮遊性の水草である。日本には昭和初期に鑑賞用として輸入され、水槽や池などに植えられたものが逸出、帰化したと考えられている（浅井、1984）。繁殖は主に走出枝により、子株を作って増えていく。

筆者は1991年の秋に、広島県西条盆地でボタンウキクサが大繁殖しているのを観察したので報告したい。9月26日に、広島大学生物生産学部の職員の方御二人が訪ねてこられた。名前を教えてほしいと持参された水草が、ボタンウキクサだった。ボタンウキクサの実物を見るのはこれがはじめてだったので、生育地に連れていってもらうようお願いした。

ボタンウキクサが生育していたのは、東広島市西条町の広島大学生物生産学部農場内にある明鏡調節池である。この池は、昭和58年（1983年）に農場の造成に伴って新しく造られたとのことで、面積は堤防を含めて約1.5ha、水面は0.8-0.9haである。ボタンウキクサは池のほぼ半分を占め、池の中央部には開水面が見られた。水面には

ウキクサも生育していた。

10月7日に、写真を撮ろうともう一度池に行った。すると池のほぼ全面がボタンウキクサでおおわれており（図1、2）、その繁殖の速さに驚いた。池の北西部に、狭い面積ではあるがヒシが群生していた。またホテイアオイも数株見られた。なお橋本卓三氏によると、8月16日にはボタンウキクサは池に点々と見られる程度だったとのことである。

ボタンウキクサは、日本では沖縄、八重山諸島に帰化し、それ以外の所では越冬できない（大滝・石戸、1980）ため、おそらく西条盆地のこのボタンウキクサの大繁殖は今年だけのことであろう。

### 引用文献

浅井康宏、1984. 日本でふえている水生の帰化植物。

採集と飼育 46 (7) : 289-293.

大滝末男・石戸忠、1980. 日本水生植物図鑑. 318pp. 北隆館.



図1 明鏡調節池に繁茂するボタンウキクサ  
(1991年10月7日)



図2 ボタンウキクサ. 小さな花が咲いている  
(1991年10月7日)